

# 新たな船出！創立50周年に向けての抱負



沖縄国際大学 犬城 保 学長と  
校友会 上原秀雄 会長との対談

することができました。

そういう意味では、この度の40周年記念事業開催の意義は大きなものがあつたといえます。

また、犬城学長は、本学の第11代理事長兼学長にご就任され、今年度の4月からは3年目となります。

学長におかれましては、これまで大学の発展のために、日夜ご奮闘され、大学運営の改善・改革に大きなご功績を残されておりますことは誠に喜ばしい限りであります。同時に、犬城学長は日本私立大学協会の理事としてご就任されておりますが、今後の大学運営についての抱負などをお伺いしたいと思います。

〈学長〉先ずは創立40周年おめでとうございます。先日はお疲れさまでした。上原会長はじめ校友会の皆さんには、いろいろとご協力とご理解頂き大変ありがとうございます。これまで諸先輩がこの大学をしっかりと運営されてこられたお陰で財政基盤も確立し、すばらしい大学へと発展してきました。これから、後2年間運営をさせていた、たくということになりませんが、これまで築かれた基盤を踏まえ、改めて一步を踏み出すことが大切だと思います。そのため、大学改革を進めていきたいと考えています。そのために、設立当初より本学がめざしたのは、「地域に根ざし、世界に開かれた大学」であります。本学も40周年の節目を終え、新たなステージに飛躍しなければならぬと考えており、それは「地域を動かし、世界につながる人材」を育成することです。そういう方向で将来に向けての大学改革、改善を進めていきたいと考えております。地域貢献はもろろんのこと、今後グローバル化が更に進んでいくにあたり、東南アジア、中国を含めた20億近い人口を有する近隣諸国の中で、「アジアの十字路」に位置し、その中で本学が学生、地域、世界に何が出来るかを皆で考えていきたいと思っております。その際には、後援会、校友会の協力も必要ですので宜しくお願いします。

## 2、大学・後援会・校友会三者連携の意義について

〈会長〉私ども校友会は、これまで校友活動の他、在学生への就職活動への支援、文化・スポーツ活動支援、奨学金供与事業や、後援会（在学生のご父母で構成）との共同事業として厚生会館、東村セミナーハウスの寄贈などの各種事業を実施してまいりました。

後援会の池田光男会長は大学の「良きパートナー」として校友会と後援会との密接な相互の協力がますます求められている。」と述べられております。

三者の連携は将来の母校の発展への大きな要素であると思いますが、大学並びに後援会と校友会との連携強化について、学長の思いをお聞かせ下さい。

〈学長〉保護者団体である後援会と大学は、社会で活躍出来る人材を育成していく上で、緊密な連携を図っていくかなければなりません。一方、卒業生の団体である校友会は、県内外、世界の各方面で活躍している卒業生と大学とのパイプの役割を担い、連携支援して頂くことで、大学への貢献、ひいては在学生の励みにもなっております。

直接的に卒業生の皆さんに大学のために何か支援してもらおうと言うことではなく、各方面で卒業生が頑張ってもらうことで、「私も沖国大の卒業生です。」と胸をはって言えるような環境づくりが大事だと思います。

そのためにも、校友会と後援会が車の両輪となって、運転手である大学と一体となって、乗客である学生を目的地まで送り届けることが出来る緊密で強力な連携が必要だと考えております。

## 3、地域との連携について

〈会長〉本学が目指す「地域に根ざし、世界に開かれた大学」を掲げておりますが、学長も日頃から地域への取り組みを重点的に強化していきたいと述べられております。

大学と地域のあり方、そして今後の地域連携などについてお伺いしたいと思います。

## 1、学長就任3年目の抱負について

〈会長〉犬城学長には、日頃から私も校友会に対し絶大なご厚意とご尽力を頂いておりますことに対し、改めて御礼申し上げます。

去った2月23日には校友会創立40周年の記念式典及び祝賀会が本学体育館で催され、学長をはじめ、教職員の皆さまのご出席並びにご協力を頂き、心から感謝申し上げます。本学卒業生も5万人余に達することから、母校の果たした役割とご功績の大きさ、本会の責務の重さを改めて確認